

2021年9月18日

「学校と社会をつなぐ調査」最終調査直前イベント

# いま、学校と社会をつなぐとは

柏木智子(立命館大学)

k-tomoko@fc.ritsumei.ac.jp

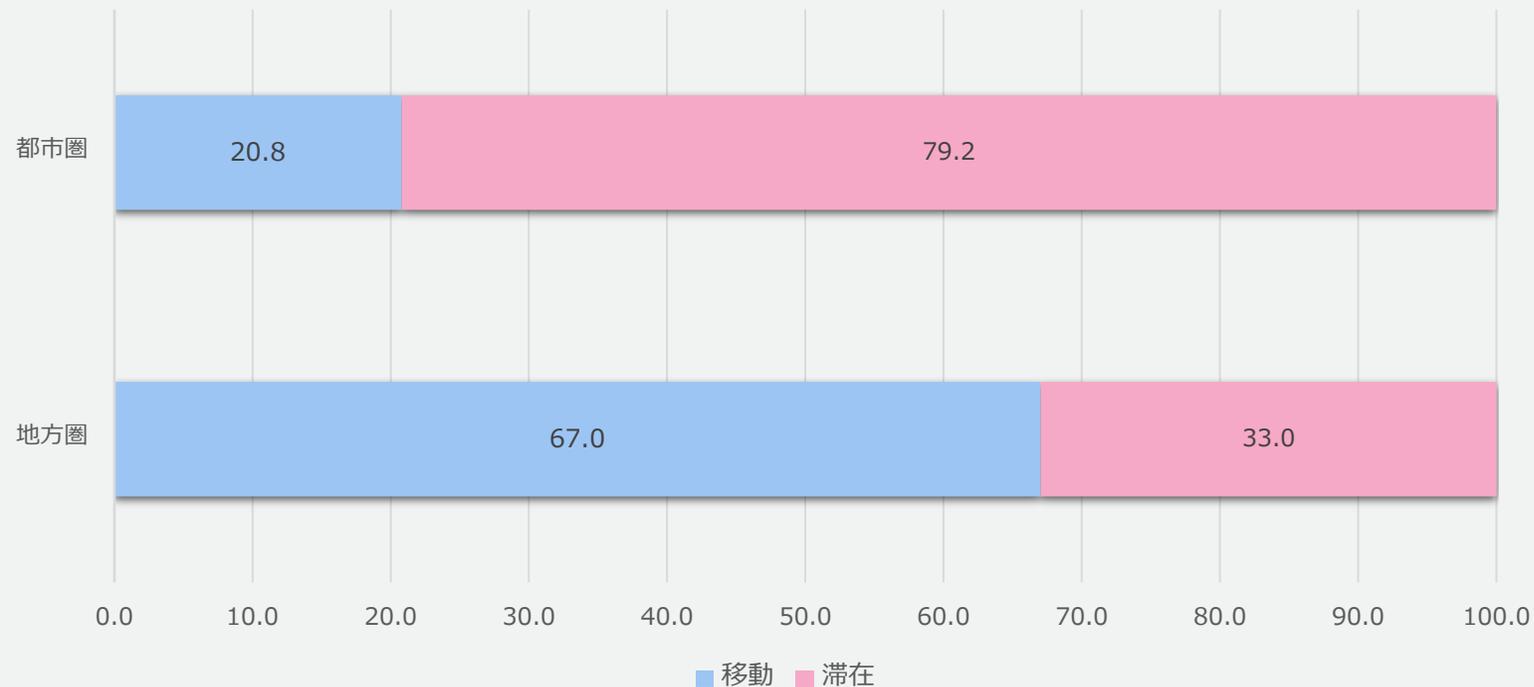
# トランジションと地域移動

- 地域移動の規定要因：何が地域移動を促すのか
- 地域移動の学生生活への影響：地域移動者はどのような学生生活を送っているのか

# 本調査における地域移動者

- 大学進学者（5806人）：地域移動者47.2%、地域滞在者：52.8%
- 高校生時の居住地（都市圏 = 三大都市圏・地方圏 = 非三大都市圏）別の地域移動状況

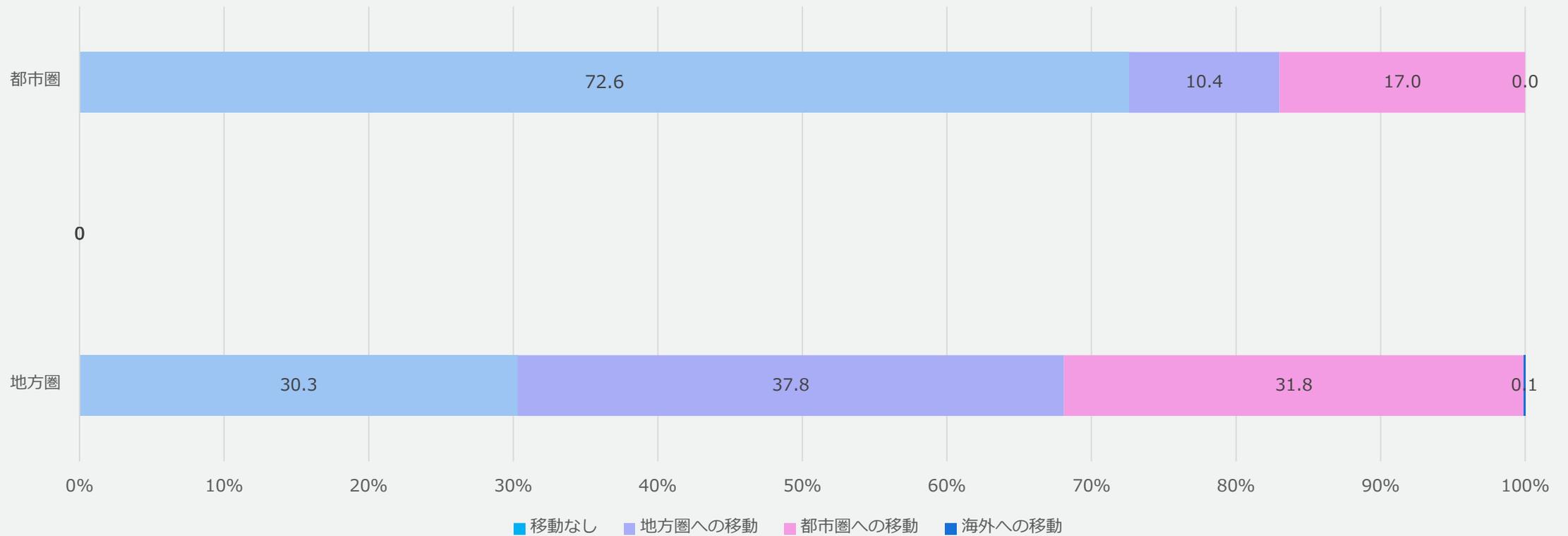
居住地×地域移動（%）



$R=0.448^{**}$   
 $*p<.05, **p<.01$

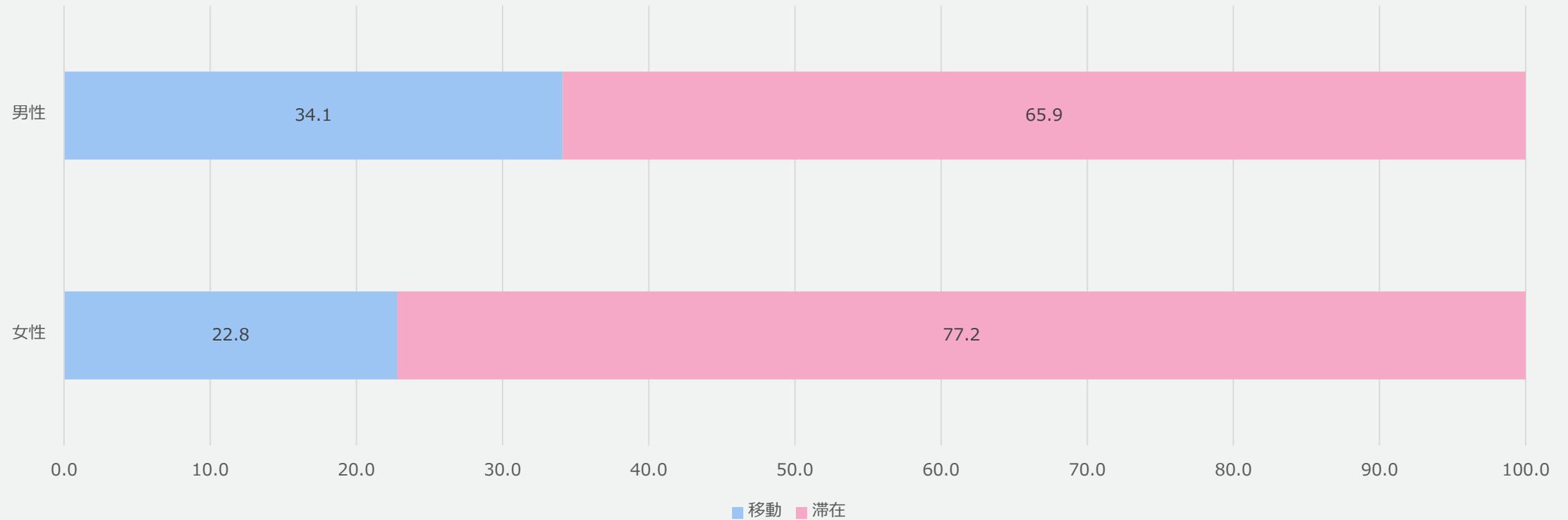
# 居住地×地域移動詳細

居住地×地域移動(%)



# 都市圏居住者：性別×地域移動

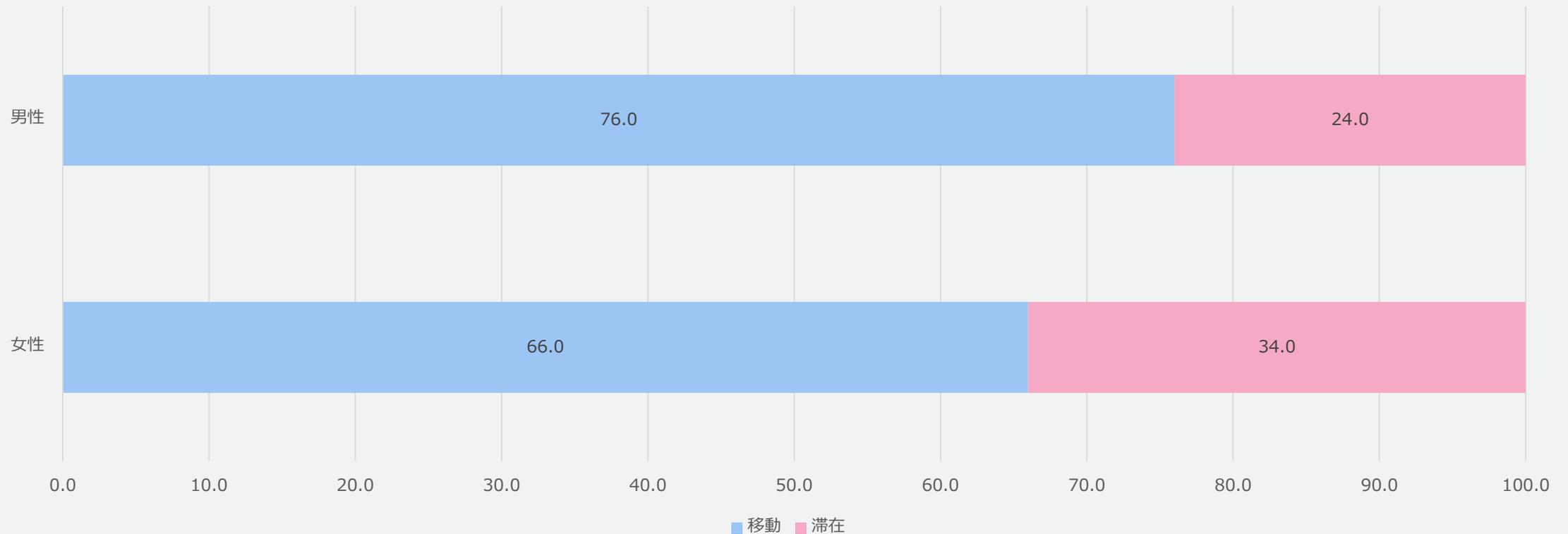
都市圏居住者：性別×地域移動（%）



n = 2954、R = .124\*\*

# 地方圏居住者：性別×地域移動

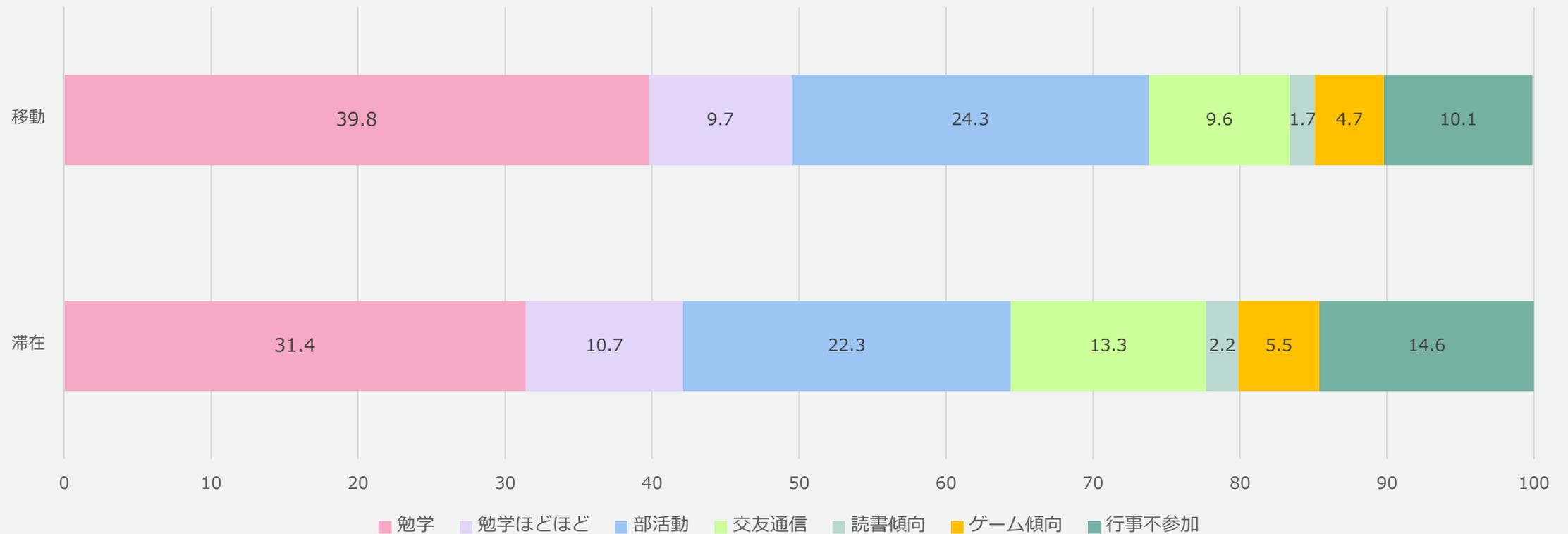
地方圏居住者：性別×地域移動



n = 2638、R = .105\*\*

# 地方圏居住者：生徒タイプ×地域移動

地域移動×生徒タイプ (%)

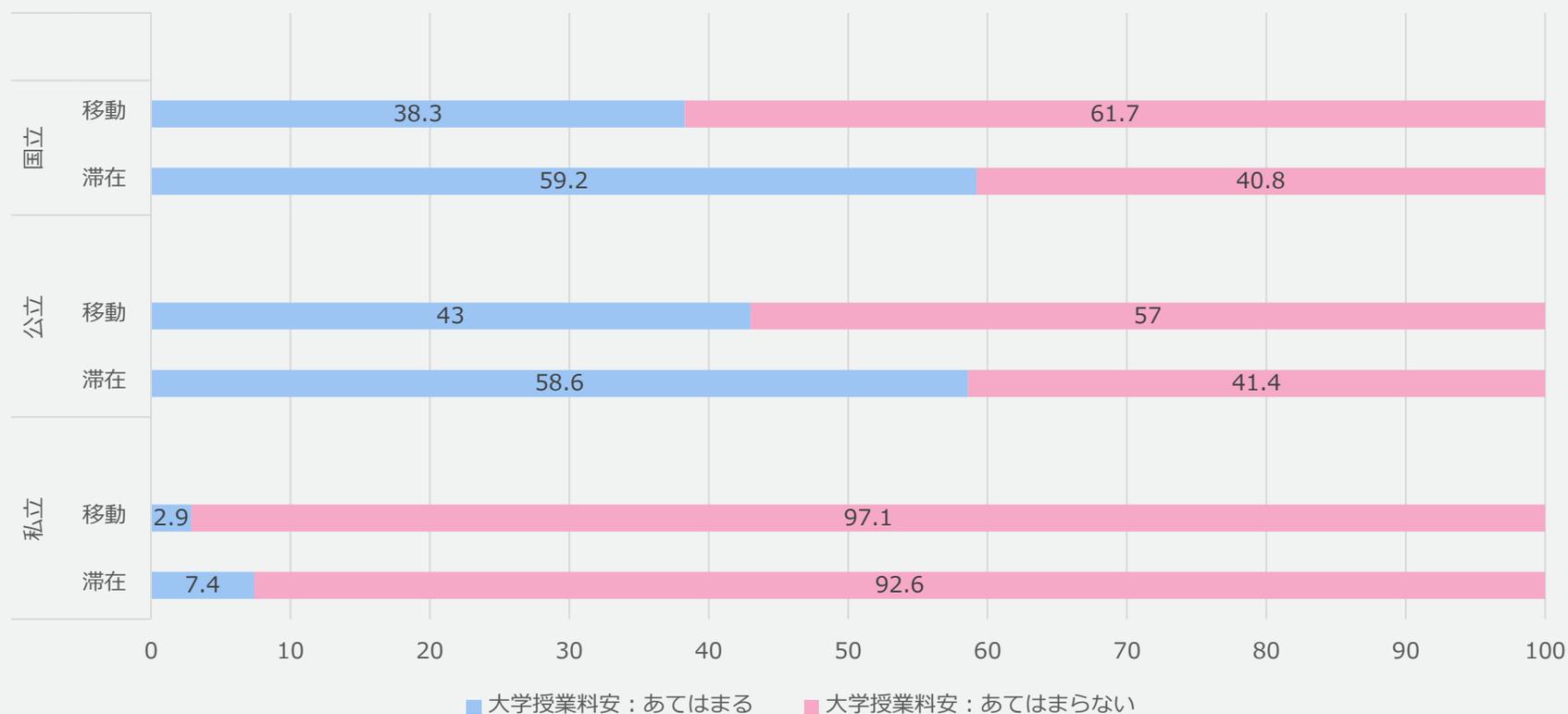


n = 2638、R = .094\*\* Cramer'V = .107

# 地方圏居住者：大学進学理由×地域移動

- 大学進学理由：大学は授業料が安いから×大学の設置形態×地域移動

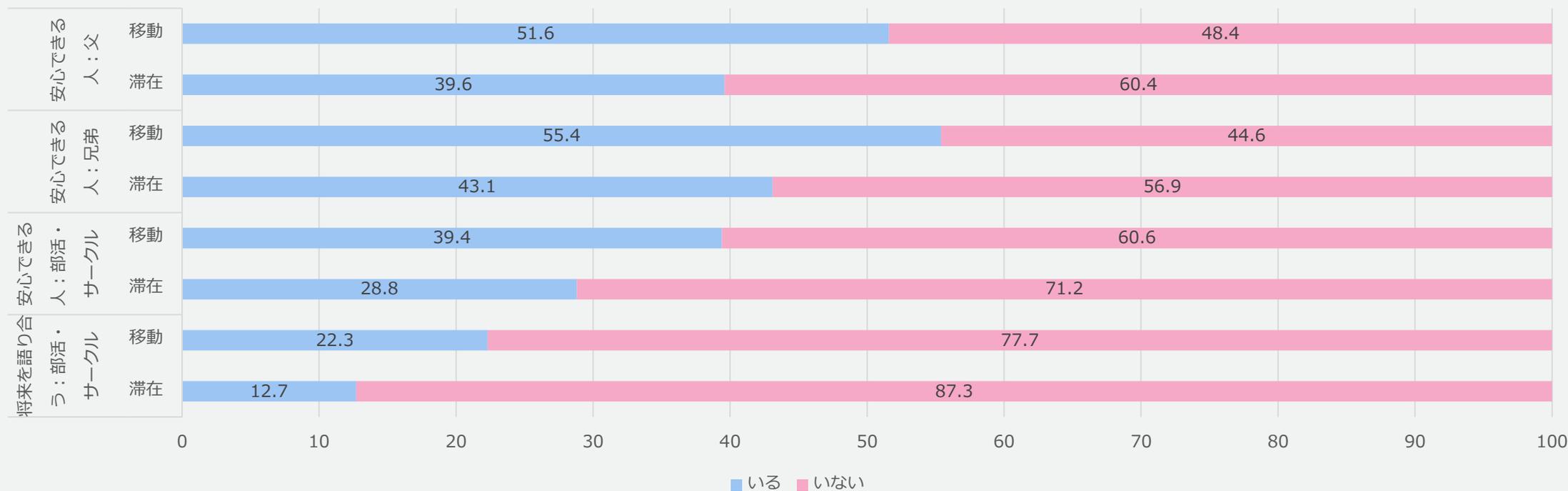
国公私×地域移動×大学進学理由授業料の安さ (%)



n = 2638  
(内国立1324、公立273、  
私立1041)  
国立R = .207\*\*  
公立R = .156\*\*

# 地方圏居住者：ソーシャルキャピタル×地域移動

ソーシャルキャピタル×地域移動・大学生活 (%)



n = 2638、上から順にR=.111\*\*、.102\*\*、.113\*\*、.112\*\*

# 学生（大学1年時）のソーシャルキャピタル

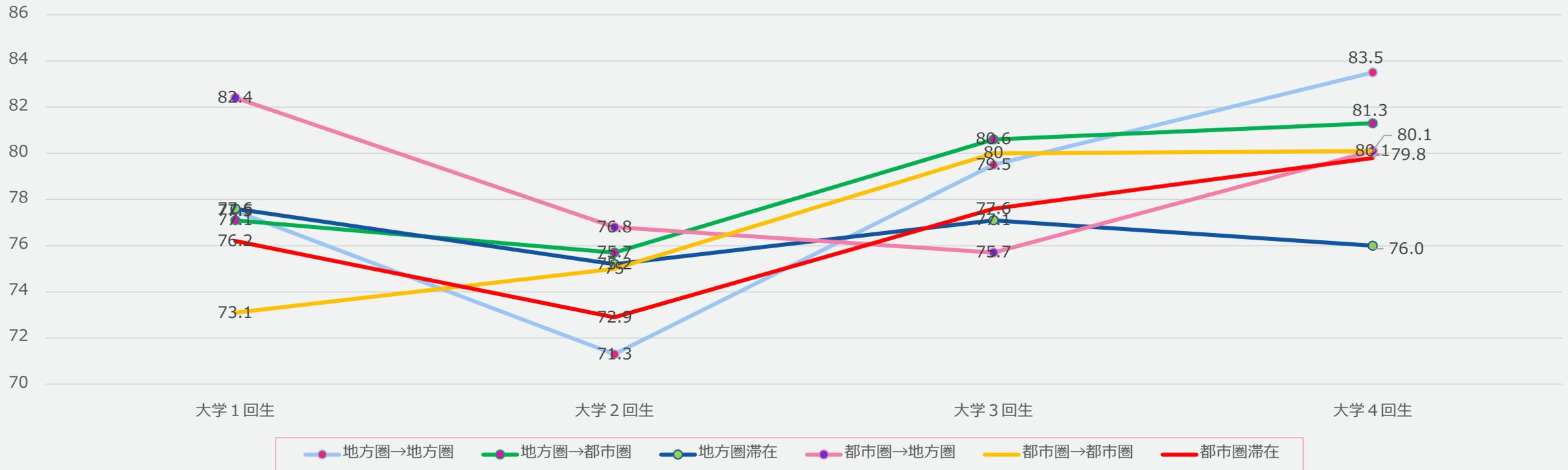
項目	母親	父親	きょうだい	恋人・配偶者	小中高等学校で知り合った友だち	今通っている学校の友だち	小中高校時代の先生・職員・相談員	今の学校の先生・職員・相談員	ネット上の友だち	現在加入している部活やサークルの友だち	職場・アルバイト先の友だち・同僚・先輩・上司	地域の知り合い	NPO・ボランティア・市民活動の知り合い	そういう人はいない
1安心	74.4	49.8	54.2	21.4	75.8	57.0	16.3	2.4	5.8	40.1	9.4	2.6	1.4	2.1
2語り	58.2	29.8	16.1	15.4	45.1	56.3	5.7	1.7	1.9	23.2	4.9	0.7	1.0	5.4
3困り	72.5	47.6	11.3	12.2	42.5	50.4	10.0	7.3	2.6	24.1	7.6	0.9	0.8	4.0
4経済	85.2	87.3	10.1	2.7	3.5	3.2	0.3	0.2	0.2	2.0	0.8	0.2	0.3	0.4

1. いっしょにいと居心地がよく安心できる人
2. 今の生活、また将来のことについてよく語り合う人
3. 困ったときに、必要なアドバイスや情報を提供してくれる人
4. 経済的な面でふだん支えてくれている、あるいはいざというときに支えてくれる人

\* n=5806（ただし、父親該当者数値は父不在者122名を除き算出）数値は該当者の%

# 地域移動×学生生活の充実度

地域移動×学生生活の充実度 (%)

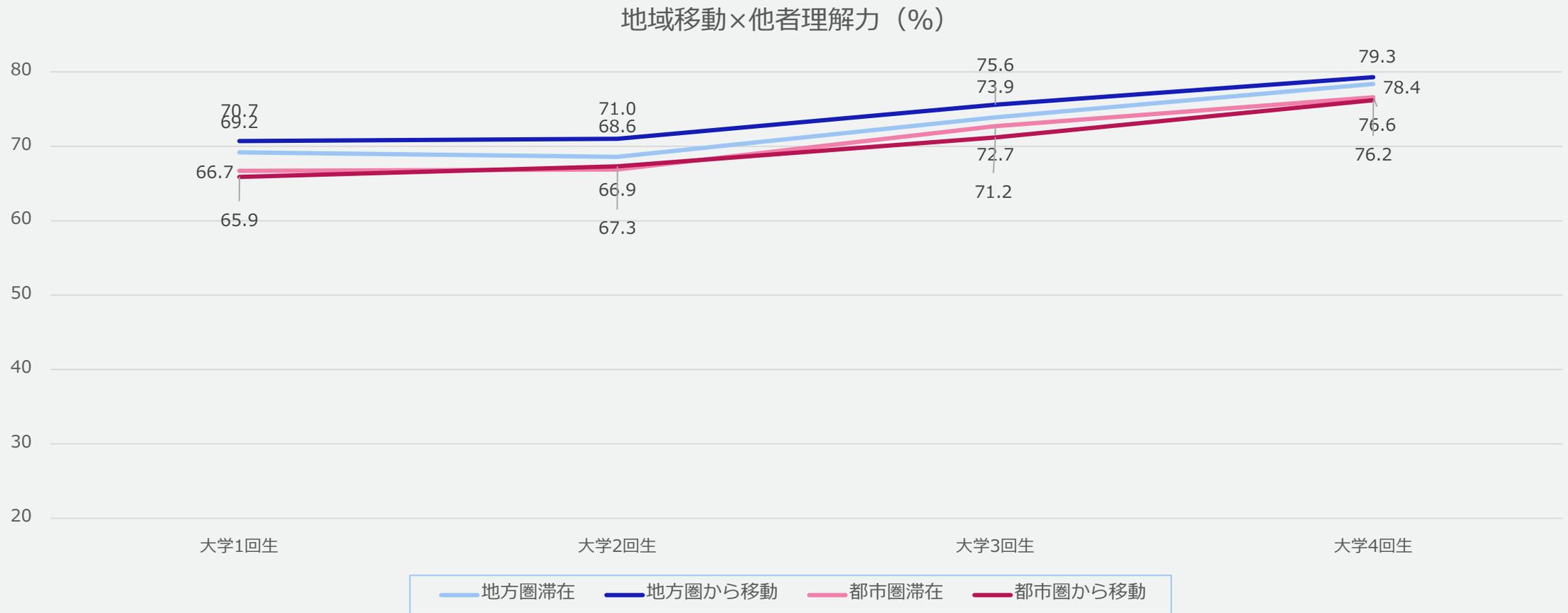


地方圏→地方圏・地域圏滞在者と大学4年時の充実度とのR=0.95\* Cramer'V=.118

地方圏→地方圏・地域圏滞在者のパネルデータ分析の結果、地域移動の係数=-.059、SESの係数=.137\*、男性ダミーの係数=.247\*\*

n=5806

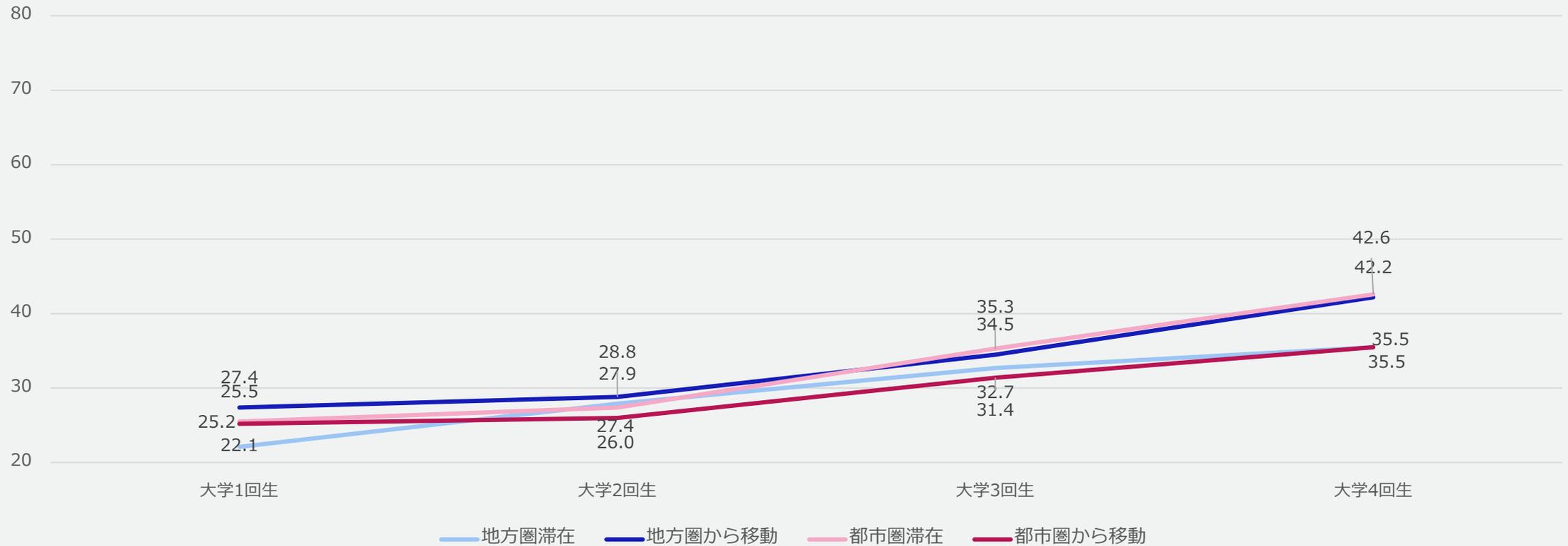
# 地域移動×他者理解力



n = 5806  
パネルデータ分析での有意差なし

# 地域移動×計画実行力

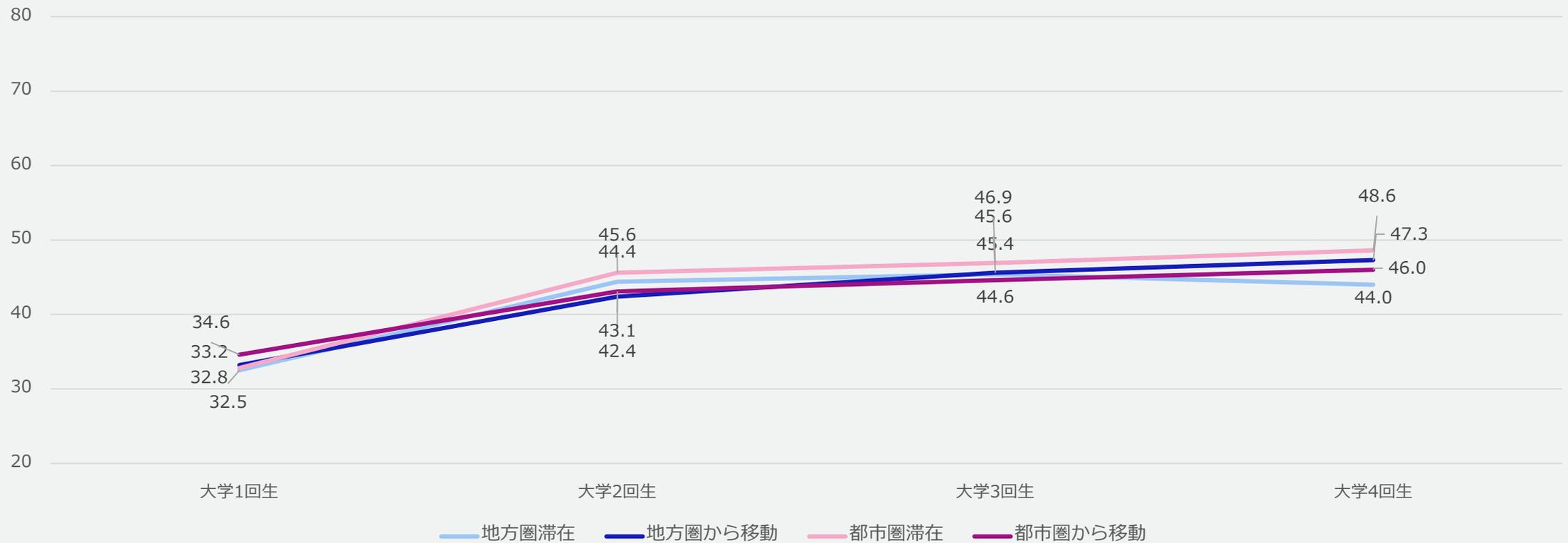
地域移動×計画実行力 (%)



n = 5806  
パネルデータ分析での有意差なし

# 地域移動×コミュニケーション・リーダーシップカ

地域移動×コミュニケーション・リーダーシップカ (%)



n = 5806  
パネルデータ分析での有意差なし

# 地域移動×社会文化探究力

地域移動×社会文化探究力 (%)



n = 5806  
パネルデータ分析での有意差なし

# 地域移動の促進要因

- 地方圏の生徒の方が移動しやすい。移動先は、都市圏と地方圏と同じ程度の割合である。
- 都市圏・地方圏ともに、女性よりも男性の方が移動しやすい。
- 生徒タイプの中で、勉学タイプが移動しやすく、交友通信タイプ・行事不参加タイプが移動しにくい。
- 大学進学の原因が大学の授業料の安さではないとする生徒の方が移動しやすい。つまり、経済的な理由が移動するかしないかの要因となっている。
- 父や兄弟と安心できる関係性の生徒の方が移動しやすい。

# 地域移動者の学生生活

- 移動した学生は、移動しない学生よりも、学生生活の中で部活やサークルの友達と安心したり語り合ったりする関係を築いている。
- 大学1年生時点で、安心できる人は、母と小中高時代の友だちである。
- 今の学校の教職員がソーシャルキャピタル項目のいずれにおいても大変低い値である点は、特に地域移動者にとっての大学の在り方の見直しの必要性を意味する。
- 地方圏から地方圏に移動した学生の方が、地方圏に滞在する学生よりも充実した学生生活を送っている傾向にある。ただし、社会階層と性別の影響が大きく、その中でも社会階層の高いほど、そして男性の方が充実した学生生活を送っている傾向にある。
- 大学生の資質・能力である、他者理解力、計画実行力、コミュニケーション・リーダーシップ力、社会文化探究力への地域移動の影響は見られない（その他、成績やアクティブラーニング等に関して地域移動の影響は見られない）。ただし、資質・能力の図に示すように、大学1回生から4回生に向けて伸びている。これらの結果から、日本の大学は、小中高と同様、一定均質な学習内容を提供し、地域格差の生じにくい学びの保障をしていると考えられる。